

国立がん研究センター東病院
National Cancer Center Hospital East

看護職員募集のご案内

最先端の
がん医療を担う
一員として
羽ばたく



国立がん研究センター東病院 看護部

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1
TEL. 04-7133-1111

国立がん研究センター東病院

検索

www.ncc.go.jp/jp/ncce/index.html



がんの最先端医療を担う
チームの一員として役割を果たし、
がん看護の発展に努める

Contents

- 2-3. 理念・基本方針
- 4-5. 最先端の医療現場
- 6-7. 初年度教育プログラム
- 8-9. 実践・専門・パワーアップコース教育プログラム
- 10-11. 先輩インタビュー
- 12. 看護師のある一日
- 13. ナースマンの活躍
- 14. がん患者・家族総合支援センター
- 15. 病院周辺MAP

看護部の基本方針

- 1 患者の生命の尊厳と権利を尊重し、信頼関係を大切に安らぎのある看護を提供する
- 2 看護の本質を追求し、科学的・創造的な看護を実践する
- 3 臨床研究を推進し、がん看護の新たな情報を発信する
- 4 リーダーとして活躍する人材を育成する



National Cancer Center Hospital East

看護部長からのメッセージ

看護部長 市橋 富子

看護師は患者さんに最も近い存在にあり、24時間継続して看護しています。看護師は豊かな感性で、患者さん一人ひとりの思いを受けとめ、患者さん自らの生活や生き方を大切に安らぎのある看護を提供できるよう努めています。

当院には緩和ケア病棟がありますが、緩和ケア病棟だけでなく全ての病棟で緩和ケアを行っています。また、多職種との協働によるチーム医療を重視し、急性期から終末期のあらゆる段階にある患者さんが、自ら意思決定ができるよう患者さんと共に歩いています。



看護師は、時には患者さんに手をさしのべることに戸惑いを感じる場面に遭遇したり、かける言葉が見つからず、そっと肩に手を置き寄り添う時をすごしたり、苦痛の和らいだ患者さんの笑顔に助けられたりしながら、寄り添い、看護する喜びや看護への思いを深めています。



がんの治療は外来に移行し、在宅でご家族と共に療養生活を送られている患者さんも多くなっています。在宅での生活を支援する看護師の役割も大きく、患者さんやご家族に対する指導力も求められます。

当院には、専門看護師や認定看護師をはじめとして専門性を極めた看護師がたくさんいます。

「がん」と告げられた患者さんの思いに近づき、がんと共に生活していくための支援を共に考えながら行っています。



私たち看護師は、より安全で安楽な看護技術はもちろんのこと、医療チームの一員としてコミュニケーションスキルを高め、常に患者中心の看護実践が求められています。

看護部では「学ぶ組織」を目指し、あらゆる機会を「学びの場」とし、しなやかな思考と行動のもとに「学んで輝き生き生きと動く」をモットーに魅力ある職場づくりに取り組んでいます。「育てる」ことを第一に、「見守る教育」を行っています。

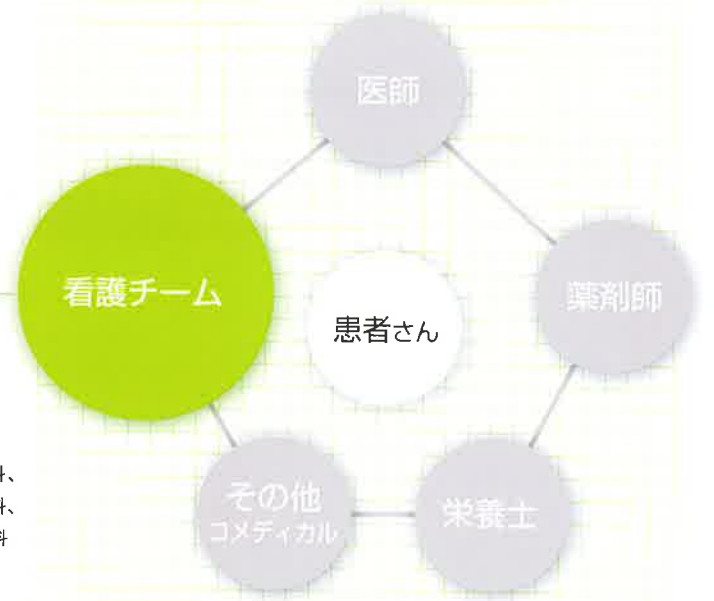
最先端に立つ 責任感・使命感。

国立がん研究センター東病院は、最良のがん診療の提供とともに、新しいがん医療を創出する役割を担い、手術・化学療法・放射線治療など、最先端医療を行っています。

最良の医療を提供するためグループ診療体制をとり、より客観性の高い診断と治療決定のために外科、内科、放射線科、病理などの壁を取り払い、治療方針を決定しています。また治療過程における症状マネジメントを行い、苦痛を緩和しQOLの向上に努めています。

DATA

開設年月日	1992年7月
病床数	425床
職員数(看護職員数)	750名(300名)
看護方式	固定チームナーシング、プライマリーナーシング
診療科目	内科、精神科、呼吸器科、消化器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科
看護配置	一般病棟 7:1 入院基本科



がんに対する最先端の現場



手術部

年間約2,500の手術を行う手術部は、患者さんの緊張を和らげ、安全で安楽に手術できるようにコミュニケーションをとっています。他の専門スタッフ達と連携し、がん専門の手術室看護師としてケア・技術・的確な判断力を磨くため、自己研鑽に努めています。



集中治療室

主に、手術後や重症者など集中治療を必要とする患者さんが入室し、全身状態の管理や治療・看護を行います。リハビリでは麻酔覚醒までの看護を行っています。日々のカンファレンスを通して、集中ケアを学び安全で安楽な質の高い看護を提供します。



頭頸科病棟

眼科領域と脳外科領域を除いた頭部から頸部までの領域を担当する病棟。頭頸科は、言語・呼吸・食事に密接にかかわる臓器を取り扱い、治療等による障害が日常生活に大きく影響するので、手術後のリハビリテーションに力を入れます。



支持療法チーム

がん看護専門看護師、精神腫瘍科医師、緩和医療科医師、薬剤師、管理栄養士(臨床心理士、ソーシャルワーカー)でチームをつくり、心身両面の苦痛・苦悩を少しでも緩和できるように専門的な治療やケアに努めています。



治験コーディネーター(CRC)

治験コーディネーター(CRC:clinical research coordinator)は新薬開発の一端を担い、必要とされる患者さんに貢献するために、治験内容の説明や、不安・心的負担を軽減するための相談相手として、被験者の方のケア・サポートをしています。



退院調整・在宅支援

がん治療の外来化や在院日数の短縮化に伴い、在宅でケアが必要な患者・家族が安心して退院できるよう退院調整看護師を中心に、入院早期から患者さんの個性に応じた退院調整・在宅支援の取り組みを行っています。



リンパ浮腫教室

リンパ浮腫は初期段階で適切なケアを行いつつ、セルフケアを身につける事が大切。発症の可能性がある方、発症している方とその家族を対象に、セルフケアの方法を習得していただくために、リンパドレナージセラピストとして指導しています。



通院治療センター

外来がん化学療法を中心に、患者さん自らが副作用をコントロールできるよう、治療に関連した必要な事柄について全てサポートしています。薬剤師・栄養士・医療ソーシャルワーカーなど専門職種とチーム医療を行っています。



緩和ケア(PCU)病棟

がんの進行に伴う様々な症状や心の負担を緩和し、質の高い生活を送ることができるよう、チームでケアを行います。症状緩和のためのアセスメント能力と、科学的で根拠のある実践、コミュニケーションを基盤とした信頼関係が求められる病棟です。



なんでも相談

患者さんによる、病状や治療による副作用に対する対処方法、化学療法の詳細や、不安や悩みなどの心的相談はもちろん、そのご家族の心のケアも行っている、「なんでも相談」を開設しています。

質の高い看護の 実践者へ。

当院では、全ての看護師が『より質の高い看護を実践』すべく、個々が目標を持ち成長できる教育プログラムを用意しています。

看護師として基本的な事項から、実践そしてがん専門病院の看護師として、スペシャリストへの成長までしっかりとサポートしています。

教育目的

看護部の理念、基本方針をもとにがん患者・家族のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上を目指した質の高い看護を実践できる看護師を育成する

教育目標

1. 安らぎのある看護について振り返る
2. がん患者・家族のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上について深める
3. がん看護の専門性を追求する
4. がん看護における役割モデルとなる



看護技術演習

定期的に行われる合同研修では、基礎的な知識からがん看護をより深く学ぶためのものなど、様々な研修を用意しています。一人ひとりが自己実現へ、主体的に取り組み、組織として、それを支援しています。

安心の教育システム

患者さんやご家族が自らの意思で治療やケアを選択し療養生活が送れるよう、優れた専門知識・技術で苦痛を緩和し心に寄り添う、『安らぎのある看護』。この安らぎのある看護を提供するため、看護技術はもちろんのこと、医療チームの一員としてコミュニケーションスキルを高め、常に患者中心の看護を実践しています。採用から1年間の『新人教育』では、事例検討を基に『安らぎのある看護』を学び、看護実践、質の向上など段階を踏んで学んでいく教育システムを用意。さらに体系的に学ぶ、自己の目標を見いだせる看護教育を目指しサポートしています。また、3ヶ月の短期プリセプターシップも採用しスペシャリストへの成長をサポートします。

実践コース	在宅支援	STEP.4 実践コースⅢ [4年目以上]						
		療養生活の質の向上						
		がん患者の療養の場を理解し、がん患者、そのご家族のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上を目指す						
		在宅支援 退院後の患者さんとご家族が安心して生活できるよう、ニーズに合わせた在宅支援を実施するための知識や方略を得て、地域におけるケアサービスの活用も含め検討できるようになる。また訪問看護を体験し在宅移行支援のイメージを高め、より質の高い支援を実践できるようになる。						
実践コース	文献検索看護研究	STEP.3 実践コースⅡ [3年目]						
		エビデンスに基づいた看護実践						
		研究的態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護を実践する						
		看護研究の概要 看護研究を実践するための基本的能力を身につける。研修で学んだ知識・他者からの意見をもとに文献検索を行い、検討・報告書の作成ができるようになる。	看護倫理 看護専門職として、倫理的問題に対する能力を養う。スタッフ全員が倫理的問題に気づき、患者さん・ご家族の意思を尊重しているかを検討して振り返る。					
実践コース	事例検討	STEP.2 実践コースⅠ [2年目]						
		患者の意思を尊重した看護実践						
		意思決定のプロセスを理解し、患者さん・ご家族の意思を尊重した支援ができるようになる						
		がん患者のアセスメント 患者さん・ご家族のニーズに合わせた看護を展開するためのアセスメント能力を養う。	意思決定への支援 患者さん・ご家族の心理過程の理解を深め意思を尊重し、看護実践に活かす。	看護観 患者さん・ご家族への看護実践を通し、自己の看護について振り返る。				
新人教育	事例検討	STEP.1 ベーシックコース [1年目]						
		安らぎのある看護						
		4月 採用者オリエンテーション ・看護記録情報管理 ・院内感染防止 ・医療安全の確保 ・看護技術演習	5月 看護のきほんの「き」	6月 リフレッシュ研修Ⅰ 臨床教員が新卒看護師の皆さんのサポーター役として研修に参加したり、学習の個別相談にも応じています。	7月 救急蘇生	10月 リフレッシュ研修Ⅱ	11月 医療安全と事故防止	12月 自己の振り返り

より上質の看護を。 さらなる成長を実現する。

さらにステップアップを実現するため『パワーアップコース』、『がん専門コース』等の教育制度も用意しています。また、専門看護師・認定看護師を目指す方のための支援制度も充実しています。

パワーアップコース

ワンランク上の看護師になるために、教育的支援の観点を学んだり、自分の目指す看護実現のために実践的な研修を行います。

プリセプターシップ

教育的支援のあり方、方法を学ぶ

人を教え、育てていく過程を学び実践することで、プリセプティとともに成長し共に自己の目標に向かって進んでいく力を付けていきます。



ベストプラクティス研修

看護サービスの充実を図る
問題解決能力を身につける

病棟で困っていることや業務が機能していないことなど、問題解決技法を用いて方策を立てていきます。皆と共に対策にあたり、時には病院全体の改革にあたり、ベストな状態を生み出します。

ナーシングマネジメント

所属部署において病院組織を視野に入れ、他職種を活用しながらリーダーシップを図るための知識・技術を身につけます。

コミュニケーションスキル

傾聴・共感的理解・承認を学ぶ



何気なく関わってきたことをスキルと結びつけ、意図的に対応できるようになります。患者さんの感情の動きを見据え、より安心して看護を受けていただける方法を学びます。

がん専門コース

がん看護の発展のために、がん看護の専門性を追求することを目的としています。「基礎編」と「応用編」に分けており、「基礎編」では「がん性疼痛看護」「がん化学療法看護」「生活支援」「スキンケア」「ストーマケア」を学び、ここでは経験年数を問わず、受講できます。「応用編」は「症状緩和」「がん化学療法看護」をより深く学び、複雑な事例を検討しながらがん看護を極めます。



基礎編

経験年数問わず受講可能

疼痛緩和	がん化学療法看護	生活支援	スキンケア	ストーマ・瘻孔ケア
がん性疼痛について適切なアセスメントを行い、根拠に基づいたがん性疼痛看護を実践する。	安全・確実ながん化学療法投与の知識を習得し、実践する。	がん看護における、生活支援について理解し、患者・家族のQOL向上に努める。	がん看護におけるスキンケア方法や、褥瘡・創傷・失禁に関する知識・技術を習得し実践する。	がん疾患に伴うストーマ造設や瘻孔形成におけるケアの知識・技術やアセスメント力を培い実践する。

応用編

症状緩和	がん化学療法看護
基礎編「疼痛緩和」の受講修了者	基礎編「化学療法看護」の受講修了者
症状のアセスメントを行い根拠に基づいた症状緩和を実践する。	安全・確実・安楽な視点でがん化学療法のマネジメントができる。



専門看護師

認定看護師

海外研修

がん医療研修

専門看護師・認定看護師をめざす

活躍の場が広がる、
スペシャリストになる。

当院では、日々進歩し、必要とされる最新・高度な医療技術に対応するために、資格取得を目指す人が安心して勉強できる環境づくりを行っています。

自己啓発休業や研究休職などの制度を整えており、自己実現に励む人達への一助となればと考えております。

がん専門看護師をめざす

ひらの ゆうた
平野 勇太

6A病棟 / 2008年入職
山梨大学医学部保健学科看護学専攻

配属が治験病棟のため、標準治療とされているものだけでなく最先端の治療に触れ、それらの副作用のマネジメントに日々悩んでいます。患者さんと共に副作用コントロールについて相談し取り組んでいくなかで、より専門的な知識の必要性を感じ、質の高い看護を実践できるよう成長するため、がん専門看護師をめざしています。





がん看護の発展のために。 日々邁進しています。

がんの最先端医療を担う当院は、各分野のスペシャリスト達がそれぞれ使命感を持ってがん看護に向かい、「患者さんに安心していただける看護」「より質の高い看護」の提供を目指し、日々実践しています。



がん看護専門看護師

CNSを通して、意識的に考え行動する。

ほそだ ゆきえ
細田 志衣

看護部長室／2009年入職

在宅で安心して療養できるよう、今後予測される病態生理を想定し、在宅で必要とされるあらゆる部分を、ご家族も含めたトータルな視点でのアセスメントに力を入れています。臨床での経験を振り返り、今後も専門職として技術や知識を深め実践に活かしていきたいと考え資格を取得しました。現在、教育にも携り、院内外で「がん看護」についてあらためて学んでいます。



精神看護専門看護師(リエゾン)

患者さんの不安を、少しでもなくしたい。

てらだ ちゆき
寺田 千幸

外来／2009年入職

私は病院内での実践・コンサルテーションを通常業務としています。患者さんと接するにあたり、どうしても強い不安を感じられる方がいて、少しでもその不安を取り除ければと精神看護を深く学びたいと考えました。資格取得へ向け学んだことにより気持ちにゆとりを持てるようになり、立ち止まって考えることができるようになりました。



がん性疼痛看護認定看護師

痛みのなかで生抜く患者さんに貢献する

せきもと あすこ
關本 翠子

緩和ケア病棟／1986年入職

患者さん・ご家族の抱える痛みを身体的苦痛だけでなくトータルペインとしてアセスメントしています。私の入職時、がん性疼痛に対する認識は薄く、『治療』にばかり関心が注がれていました。そんな中、痛みへ耐え死に生抜く患者さんに貢献したいと思い、この道を選びました。専門的スキルはもちろんのことコミュニケーションスキルも必要となり、やりがいをもって職務にあたっています。



がん化学療法看護認定看護師

エビデンスに基づいた看護を提供する。

うちやま ゆみこ
内山 由美子

6A病棟／1992年入職

院内の化学療法に関するコンサルテーションと教育に携っています。認定資格取得前から化学療法に長く携っていましたが、より系統だてた知識を身につけ、エビデンスに基づいた看護をし、かつ副作用に対する援助技術を身につけ少しでもその副作用をコントロールしたいと考え資格取得に踏み出しました。がん看護の面白さも深くなり、自信にも繋がっています。



緩和ケア認定看護師

どのような場面でも、逃げ出さず受けとめられる。

てらだ きみこ
寺田 喜美子

緩和ケア病棟／2004年入職

看護部長より学ぶチャンスを与えられたのがきっかけで緩和医療の専門知識や技術を習得し、よりよい医療を提供したいと考え、資格取得することを決めました。現在は緩和ケア病棟で役割モデルとして看護実践をしています。患者さんやご家族に対してだけでなく、チームメンバーを思う姿勢や相手に向き合う姿勢が変わり、看護師として、人間として成長につながっています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

病棟単位ではない、病院全体を見渡す力がつく。

きたざわ わかな
北澤 和香奈

7B病棟／1998年入職

ストーマ造設の多い病棟へ入職し日々の職務を通して、患者さんの生活を大きく左右するのが入院中のストーマケア指導と感じ、より専門的な知識・技術を習得し自信をもって対応するため資格取得を志しました。取得後、病棟単位だけでなく病院を横断的に動くようになり、スタッフ間の連携や教育、経営まで意識しつつ、常に看護の質の向上を目指しています。



乳がん看護認定看護師

患者さんの思いにより添いながら支援を行う。

みなもと のりこ
源 典子

外来病棟／2008年入職

看護師になって2年目、ある乳がん患者さんのプライマリーナースになりました。出産後1～2ヶ月の彼女は母乳を満足にあげられず、母として子に、妻として夫に申し訳ないという思いと、なにより乳がんと診断された恐怖がありました。看護師としてその方をどう支えていいのかが悩みぬき、それが資格取得につながり、現在、自信を持って看護にあたっています。



摂食・嚥下障害看護認定看護師

「学びたい!」という動機を実現する。

おかだ きょうこ
岡田 教子

看護部長室／2003年入職

「学びたい!」という動機でこの資格を取得し、根拠をもち説明できる知識を得たことは大きな自信につながっています。専門性の高い分野のなか、視野が狭くなるのではと不安になることもありますが、嚥下障害や口腔ケア、栄養管理は全ての患者さんに共通するケア。この技術を磨くことで患者さんにも病院にも貢献でき、自身のスキルアップにもつながっていくと考えています。



日々充実。 看護師のある1日。

当院で頑張っている先輩看護師のある1日をご紹介します。様々な状況に対応し、患者さん第一の心で努めている仕事ぶりをご覧ください。



患者さんの不安を少しでも取り除くようコミュニケーションはかかせません。



脈拍を計るのに必須の時計。ハートの形は患者さんにも好評です。

かざま あすか
風間 明日佳
6A病棟

とにかく、体調を崩さないように日々の生活スタイルに気を配っています。プライベートもしっかり楽しんで仕事に臨んでいます!



忙しい日々の始まり。そんな時こそ声だし確認!



チェックを怠らず、常に細心の注意を払って職務にあたります。



寮の部屋は個性あふれる空間です。ひと息ついて明日に備えます!

日々奮闘。 ナースマンの活躍。

当院には13名の男性看護師がいます。「ナースマン」と呼ばれる彼らたちに、職場の雰囲気、周りの人たちと関係について聞いてみました。



かわまた たかふみ
川又 隆文
7B病棟 / 2010年入職

当院の魅力★

当院の一番の魅力は、医師、薬剤師、栄養士などの他職種との連携を密に行っていて、どの職種も患者さんを一番に考えて働いているということです。患者さんのためにどうすればよいのかを他職種と話し合う中で、患者さんに安らぎのある看護を行うことができたという場面も多く、とてもやりがいのある環境です。ぜひ当院と一緒に働きましょう!



ひらの ゆうた
平野 勇太
6A病棟 / 2008年入職

男闘呼組(おとこぐみ)へのお誘い

当院で働きはじめて感じたことは、男同士のつながりの強さです。似た環境の中で苦労を経験している先輩方は、入職時から見かけるたびに声をかけてくれました。仕事上だけでなく、プライベートでもご飯や銭湯に行ったり、女性の職場の中での働く極意などを伝授してもらっています。ぜひ、当院の男闘呼組(組員13名)へ!



たなか あきたか
田中 章敬
6B病棟 / 2008年入職

就職してからの3年間を振り返って

働いていると辛いことはたくさんあります。でも、患者さんと接することでまた頑張ろうと思えるんです。温かいタオルで背中を拭いていると、痛みを持つ患者さんや不安な気持ちの患者さんですごくいい表情になります。みなさんにも、ぜひその顔を見てもらいたいです。その表情が、いい酒の肴になるんですよ(笑)



すがさわ かつゆき
菅澤 勝幸
5B病棟 / 2007年入職

当院で働いて4年が経ちました

がん看護というと、難しく思われがちですが、患者さんを大切に、意思を尊重するという看護師の基本姿勢はどの分野の看護も、普遍的であることがわかり、日々学ぶ新鮮な毎日を過ごしています。当院は男性が働きやすい環境や連携があります。当院の現場で学び、将来はがん看護専門看護師の資格を取得したいと考えています。

看護師寮

5階建て、全130室のワンルームマンションタイプです。





地域との密接な連携を。 ～がん患者・家族総合支援センター～

がんにかかわる心配には、様々なものがあります。診断や治療にかかわるものだけでなく、「先生に、何を質問すればいいのだろうか?」、「同じ病気の患者同士で情報交換できる場所があるだろうか」といったことから、「つらそうな本人にどう声をかけてあげたら・・・」、「病気のことを一緒に理解したい」など患者さんのご家族の立場からの心配など多種多様です。

そこで柏市医師会の協力のもと、周辺地域にお住まいの方が気軽に相談できる場所として『がん患者・家族総合支援センター』を柏の葉キャンパス駅前に開設しました。どなたでも利用でき、治療や生活に役立つ情報や、情報交換に利用できる場所、さらに2名の看護師が常駐し直接・電話を問わず相談に応じています。地域に密着し、患者さんやそのご家族が安心して暮らすためのナビゲーターとして機能しています。

『がんになっても安心して暮らせるまちづくり』目標

1. がんの経過のあらゆる時期につらさを和らげるケアを利用できる
2. 『からだ』、『こころ』、『くらし』など様々な面からケアを行う
3. ご家族の悩みにも対応する
4. 地域のどこにいても同じように困ったことへの相談ができる



情報サロン

情報とくつろげる空間を提供。書籍やパンフレット、DVD、利用できる行政サービスや生活に役立つ情報を閲覧できます。患者さん同士の情報交換の場所にも使用しています。



地域の相談窓口

がんに関する医療や生活支援に関する相談窓口です。2名の看護師が常駐し、様々な相談に応じています。患者さんやご家族の不安を少しでも解消するお手伝いをしています。



医療・福祉従事者のサポート

医療従事者をはじめとする、患者さんや家族をサポートする方からの相談も受け付けています。また当院栄養士による患者さん・ご家族向けの料理教室等の企画や講習会等も実施しています。

都心へもカンタンアクセス。 美しい街 『柏の葉キャンパス』

最寄り駅の『柏の葉キャンパス』駅は2005年に開設された、産・官・学・民が連携するプロジェクトシティ。「環境・健康・創造・交流の街をつくる」をコンセプトに、全世代対応型の街づくりが着々と進行している美しい街で、国土交通省が発表した「IT EXPRESS構想」の中で「学術・新産業拠点」として位置づけられています。生活拠点としても「ららぽーと柏の葉」が立地するなど、プライベートでも楽しみ、当院近くの『柏の葉公園』では四季の移り変わりが楽しめるなど、自然にも恵まれた好環境です。



① ららぽーと柏の葉



② 柏の葉公園



③ 柏の葉総合競技場



周辺MAP

- つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅西口から、東武バス(国立がん研究センター経由)「江戸川台」駅東口行き、または柏の葉公園循環行 約6分「国立がん研究センター」下車
- つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅西口からタクシーで約4分
- JR常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線「柏」駅西口から、東武バス国立がん研究センター行き約30分
- JR常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線「柏」駅西口から、タクシー約20分

